

専門サービス部会部会長報告

会議名：専門サービス部会（オープン部会）

場 所：秋田商工会議所 7 階ホール 8 0

出席者：出席者：石井副会頭、水澤専務理事
部会員 1 0 名、他部会員 9 名 計 2 1 名

懇 談：人材確保・定着に向けた働きやすい環境づくり

テーマ①「仕事と家庭の両立支援」

ゲスト 秋田県 次世代・女性活躍支援課 須藤優平 氏

テーマ②「やさしく強い企業をめざして」

ゲスト （株）カミテ 代表取締役社長 上手康弘 氏

テーマ①「仕事と家庭の両立支援」

ゲスト 秋田県 次世代・女性活躍支援課 須藤優平 氏

- ❑ ワークライフバランスとは、仕事と生活を調和させることで得られる相乗効果や好循環である。
- ❑ よく誤解されるが、決して生活と仕事のどちらか一方を犠牲にするものではない。
- ❑ 仕事と子育ての両立のため、何らかの支援を行っている県内事業所は49.3%（2010年）から63.3%（2019年）に増加。
（短時間労働や就業時間の繰上げ・繰下げ等）
- ❑ あきた女性活躍・両立支援センターでは、仕事と子育ての両立や女性の活躍推進に向けた一般事業主行動計画の策定などの相談にワンストップで対応している。
- ❑ 女性活躍・両立支援アドバイザー（社会保険労務士）の派遣等により、行動計画の策定や国の認定取得を支援しているので活用していただきたい。



テーマ②「やさしく強い企業をめざして ～ワーク・ライフ・バランスは経営戦略～」

ゲスト (株) カミテ 代表取締役社長 上手康弘 氏

- 最も重要なことは、従業員を「コスト」ではなく「資産」として認識すること。
- ワークライフバランスのメリットは、短期的には従業員のモチベーションをあげること。
- 中長期的には、優秀な人材の確保や、育てた従業員に介護等で突然離職されるリスクを管理することにつながる。
- ワークライフバランスは決して従業員を甘やかしているわけではなく、休みたいときに休める環境を整える代わりに質の高い仕事を要求している。
- 業務をローテーションさせることで、多能工・多能職を育て、欠員をカバーできる体制を構築した。
- 会社が様々な特別休暇などの制度を設けることで育児や介護で休むことは正しいことであるというメッセージになる。
- 育児で休んだ経験がある従業員は、介護のために休まなければならない従業員を助けてくれる。お互い様であるという認識で不公平感をなくしている。